

新型コロナウイルス感染拡大によって撮影中止や中断など経済的損失も重なり日本映画に壊滅的なダメージを与えていた。当然、「伊藤千代子の生涯(仮)」の製作運動にも影響を与えていた。しかし、映画「伊藤千代子の生涯(仮)」は、今日の社会情勢が求める再び戦争と暗黒政治を許さない映画であり、正に社会進歩を進める国民的な映画として製作運動を果敢に前進させています。平和と人権と民主主義を勝ち取る極めて意義をもつ映画として、また、独立プロ運動の平和・人権・民主を継承した作品としても全力をあげて取り組んでいます。

映画「伊藤千代子の生涯(仮)」今日的課題
「ニニろざし今に生きて、
民衆と平和を愛した伊藤千代子の青春
二〇二一年秋クランクイン!
監督・桂壮三郎からのご挨拶



宮崎県版
No. 313
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
宮崎県本部
〒880-0031
宮崎市船塚3-193
電話 0985(26)4224
FAX 0985(20)3154
郵便振替口座
02070-9-11382

私たちの運動の基本
ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対すること
二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

長野県支援者の方々の協力を得ながらロケハンが長野県の松本・諏訪等で精力的に進められています。また、映画の要と言える魅力あるキャスティングは各劇団の俳優さんとの面接も進み5月頃までに大半のキャストが決定されます。特に千代子のキャスティングに関しては慎重をもつて若い女優さんのオーディションを行っています。現代に蘇る「伊藤千代子」にご期待して頂きたい。竹下景子、嵐圭史さん等ベテラン俳優陣も既に出演が決定されています。本映画の製作を確実に前進させ完成させる為に治安維持法国賠同盟とニニろざしを一にする皆様に中心的役割の活動を認識して頂き、一回り大きな製作運動を心からお願いする次第です。

さて、現在の反動的な政治状況を見るならば、戦前に民衆を犠牲に、アジア人民二〇〇〇万人、国内で三〇〇万人を「戦死」させた絶対的天皇制は、あの無謀な侵略戦争を反省し責任を表明してきたでしょうか。それはNOと云わなければならない。今日に於いても権

力支配層は伊藤千代子が生きた時代と変わらず天皇専制と治安維持法を是認する悪辣な策動に蠢いています。われわれはそれを許さず、社会進歩の側に立たなくてはなりません。

伊藤千代子は、男性中心の黎明期の社会変革運動のなかに躍り出た「二十三歳の女性党員第一号ともいえる女性です。千代子は科学的社会主义理論を身に着けた新しいタイプの女性活動家です。そのために、1928・3・15大規模治安維持法弾圧検挙者の一人となりました。困難な獄中で学習を怠らず獄内の活動家を励まし続け支配権力の変節攻撃とたたかい、若い命を落とした治安維持法の犠牲者です。この映画はその正史に真正面から挑むことをめざす作品で必ずや今を生きる若者たちを励まし、時代閉塞の今日を擊つ力になるでしょう。

また、この映画化は弾圧犠牲者の顕彰運動を進める治安維持法国賠同盟運動をはじめとする諸民主団体の運動のすそ野を広げる活動に役立つでしょう。

本年10月クラシックインの製作目標を掲げその完成の実現をはかり、全国上映運動を2022年春からスタートさせます。いい映画（文化）には人間の生き方に影響を与える力があり、特に若い人に見て頂きたい映画です。同時に、あらゆる人が鑑賞できる全国公開の場を設けます。全国の実行委員会の皆様に呼びかけ

よくわからないままに、この度「国賠同盟」に新規加盟してしまった。

きっかけは、3・7さよなら原発集会の会場で黄色い用紙の署名に応じたこと。数日後に鳥井事務局長さんからお葉書をいただき、求められるままに電話をかけたら事務所に呼び出された（笑）。

実は、この黄色い署名用紙には見覚えがあった。毎年末にある九民研の作文分科会に、人吉の上田精一先生（現在は長崎在住）がいつも持つていらして、もうずっと前から署名だけはしていたのだ。

その敬愛する上田先生のお誘いで、人吉の多喜二祭にも数年前から参加していたのだが、一昨年はそこで藤田廣登さん、そして伊藤千代子との出会いがあった。映画が作られるという話を聞きわくわくした。

多喜二・千代子ら、革命に生きた若い命を思うと、昔この国の犯した大罪に身悶えせずにはいられない。とともに、名もなき数多の「多喜二」「千代子」たちを顕彰すること、今も闘い続けていたる治安維持法弾圧犠牲者及びその支援者と歩みを共にすることは、現代を生きる私たち世代が引き継ぐべき大切なことではないかとも思う。

3歳の孫へ ばばちゃんの 手作り布絵本 (P. 1)



口を開けて何を食べる?
(ファスナーを開ける練習)



種は蒔かれた

小林市 秋元 ふき

鳥井さんから「治安維持法と現代」のバックナンバーをいただいた。「うたごえ」で愛唱する「多喜二へのクイエム」の作者ケイ・シュガーラーさんのエッセイも載っていた。「多喜二」とロマン・ロラン」や「山宣の葬送を描いた油絵」についての文章など、初めて知ることばかりで、驚き唸りつつ一気読みしてしまった。

とくに巻末の「治安維持法下の出版物『発禁』弾圧の実相とたたかい」には、発行物がほんの僅かな日数で読者に流通し、所蔵・継承されていることに感銘を受けて。その後には命懸けで書き綴り、印刷発行しきりで、驚き唸りつつ一気読みしてしまった。

幸い、この四月で定年退職し時間だけはたっぷり持っている。コロナ禍の不自由さを逆手にとつて、存分に学習することからスタートし、再び戦前を繰り返さない闘いの隊列に続きたい。

力支配層は伊藤千代子が生きた時代と変わらず天皇専制と治安維持法を是認する悪辣な策動に蠢いています。われわれはそれを許さず、社会進歩の側に立たなくてはなりません。

伊藤千代子は、男性中心の黎明期の社会変革運動のなかに躍り出た「二十三歳の女性党員第一号ともいえる女性です。千代子は科学的社会主义理論を身に着けた新しいタイプの女性活動家です。そのために、1928・3・15大規模治安維持法弾圧検挙者の一人となりました。困難な獄中で学習を怠らず獄内の活動家を励まし続け支配権力の変節攻撃とたたかい、若い命を落とした治安維持法の犠牲者です。この映画はその正史に真正面から挑むことをめざす作品で必ずや今を生きる若者たちを励まし、時代閉塞の今日を撃つ力になるでしょう。

また、この映画化は弾圧犠牲者の顕彰運動を進める治安維持法国賠同盟運動をはじめとする諸民主団体の運動のすそ野を広げる活動に役立つでしょう。

本年10月クラシックインの製作目標を掲げその完成の実現をはかり、全国上映運動を2022年春からスタートさせます。いい映画（文化）には人間の生き方に影響を与える力があり、特に若い人に見て頂きたい映画です。同時に、あらゆる人が鑑賞できる全国公開の場を設けます。全国の実行委員会の皆様に呼びかけ

劇映画「伊藤千代子の生涯」(仮) 宮崎サポーターの会(略称)結成会議へ参加のお願い

上記映画の製作・上映を成功させる準備を進めておりましたが、コロナ禍により会場借用等ができず当初の予定より遅れてしまいました。

下記の日程で結成会議を開催致します。ご多用のこと存じますが、ご参会頂きますようお願い致します。

- ◎主役、千代子役の俳優は6月発表予定です
- ◎1時30分より映画製作PR:DVD(20分)を上映します

記

日時: 2021年4月29日(木)

午後1時30分~4時(予定)

会場: 宮崎市民プラザ 3階大会議室

問い合わせ: 宮崎サポーターの会準備会

岩切 八郎 090-9568-2639

〒880-0912 宮崎市赤江1012-6

ます。映画制作には多大な製作資金が必要です。映画完成後の上映会を保障する上映債権の普及による資金調達を心から呼びかけます。戦後最悪の民主主義破壊の政治状況と真正面から切り結ぶ映画としていかなる困難性が待ち受けようと、また、予測されようと全力をあげて映画を完成させ、上映運動の成功を共に勝ち取りたいと思います。

中国の大主義・人権侵害に思うこと①

伊地知 孝

※中国製作のテレビドラマ『如懿伝～紫禁城に散る宿命の王妃』にはまっています。唐の乾隆帝時代、紫禁城で寵愛争いを繰り広げ、王妃までのぼりつめた女官の物語ですが、総製作費96億円をかけたというだけあって、登場人物、装置、衣装など、多彩で豪華絢爛です。女官たちが知恵をめぐらす展開が面白い。今、こうした中国のテレビドラマが一日3～4本放送されているようです。中国の映画はある程度見て知っていますが、テレビでこれほど放送されているとは知りませんでした。しかし、ドラマの好評とは違い、現実の中国に対する日本国民の感情は非常に悪い。そのことは両国で行われている世論調査に示されています。

※現在の日本人が中国を見る目が厳しいのはなぜでしょうか？一つは中国政府の東シナ海や南シナ海での強権的な行動に対する反発があると思います。また、ウイグル族などに対する人権侵害・弾圧、香港での「一国二制度」という国際公約を破壊する行動への批判があると思います。日本のメディアが中国政府の強権的な行動を逐一報道します。そのこと自体は報道として当然ですが、それが日本国民の中に刷り込まれた「中國蔑視」感情と相俟つて、問題が起ころるたびに「嫌中」

感情として増幅されているのではないでしようか。刷り込まれた「嫌中」感情と言えば、戦後数年たつた頃、私が小学校に入る前後だつたかと思いますが、こういう「しりとり遊び」（？）が流行つていました。「メジロ→ロシヤ→ヤバンコク→クロポトキン→キンノタマ→マケテニゲルハチヤンチヤンコ」というもので、当時、意味も分からず言つっていました。子どもの遊びにまで「反ソ反中」宣伝が刷り込まれていました。

今一つメディアの報道姿勢にも大きな問題があります。メディアは中国政府の人権侵害、領海侵犯などの違法行為に対し「遺憾」を表明するだけで抗議しない日本政府の屈従的外交を問題視する報道は殆ど見あたりません。また首相や政府閣僚らの靖国神社参拝に対し中国政府が抗議しますが「何回謝れば済むのか」という政府寄りのコメントだけを報道しています。侵略戦争について全く反省していない政府の言動を問題視する報道は見受けられません。靖国参拝に中国政府が抗議するのは当然ですが、メディアの報道の仕方が、日本国民には「中国は無理強いする国だ」という意識を植え付けることに繋がっているのではないか。次号に続く

先月号一面に掲載した絵の作者名が違つてきました。お詫びして訂正いたします。

（正）吉村 正治 氏
（誤）菅谷 幸則 氏

